

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

幼少期から薬剤師に憧れていて薬学部に進学しようと思っていました。薬学部のある大学を調べていくうちに同志社女子大学が国家試験の合格率が高く、サポートも手厚いことを知りました。さらにグローバル化に伴って英語の多彩なプログラムが提供されていて、自分にとって学びの環境が整っていると思ったからです。

(2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

英語に関しては1年生のときから塾で長文問題など受験対策をしていましたが、1学期は定期考査を中心に勉強をしていたのでガッツリ受験勉強をしていたわけではなかったです。この時期は夜の1時まで勉強していましたが、私の場合、次の日の授業に支障がでるので1時以降も勉強するのはお勧めしません。英語は単語が命なので休み時間や入浴中など隙間時間を活用していました。

〔夏休み〕

化学は特に理論化学が得意ではなかったのですが、「基礎問題精講」→「重要問題集」の順で基礎から応用までをカバーできるようにしていました。無機・有機化学はひたすら教科書を読んだり紙に書いてりして覚えしました。できるだけ本番を意識したかったので、化学も英語も過去問は時間をはかりながらマークシート用紙に解答していました。解答時間は見直し時間に10分余るようによく練習もしました。

〔2学期～入試直前〕

「高校必 プラクティス英語 長文編」という問題集は同志社女子大学の英語の出題形式と似ている問題もあるので、単語や文法のカがある程度ついてから解くようにしていました。入試直前、化学は応用問題を解くのをやめて教科書を読んでいました。12月1日 前日に見ていたところが出題されていたので、受験が近づいてきたら基本に戻って教科書で復習することはやってよかったと思っています。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

勉強中にどうしても眠くなったら10分間仮眠をとるようにしていました。また、学校が始まる1時間前には登校して朝も勉強していました。朝は前日の夜に勉強したことの復習をお勧めします。モチベーションを保つためにも「Studyplus」というスマホのアプリで勉強時間を記録して自分の努力が目に見えるようにしていました。スマホは時間を決めて使えば受験勉強にも支障をきたすことはないと思います。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

模試の判定はあくまでも目安なのであまり気にしないほうが良いと思います。私自身、模試の判定がEだったこともありましたが、それでも合格することができたので、模試は判定よりも自分の弱点に目を向けてください。受験勉強は先が見えないので不安や焦りで精神的にも肉体的にも辛いですが、合格後に待っている楽しい大学生活を想像するとモチベーションが上がります。自分の努力を信じ、支えてくれた家族や友達への感謝を忘れず、青春一杯やり切ってください。